



photo : Ai Hirano

Tachibana Being vol.89



WebTBはさらに充実

<http://www2.tachibana-u.ac.jp/webtb>

October 2017

特集 **たちどまらない、たちばな。**

- 02 国際英語学部生のある1日に密着
- 04 「たちばなドリームチャレンジ」に注目！
- 06 たちどまらない、京都橘の学び
- 08 「たちラポ山科」活動報告
- 09 作業療法学科&臨床検査学科 誕生
- 10 大学開学50周年記念企画 私たちの挑戦！

1 Xreadingで読書



Xreadingは、海外出版社の書籍が百冊以上あるオンラインライブラリーです。PCやスマホで英語の本を読むことができます。また、音声サポートもあるので、発音を確認できます。私は通学中や授業が入っていない時間に読んでいます。Xreadingで1学期25万ワードの英文を読むことが、EAPの単位取得条件です。

2 授業「EAP」を受講



EAPは、1クラス約15人の少人数制の授業で、すべて英語で行われます。発言する機会が多く、英語を学ぶ楽しさを実感しています。8週間終わるごとにテストがあり、クラスの再編成が行われるので、レベルを下げないようにしっかりと勉強しています。

3 CHATTER LUNCH BOXに参加



TECに隣接するラウンジで、ランチをしながら先生と楽しく英会話ができます。授業以外でも英語を話す機会を増やすため、ほぼ毎日参加しています。ここで、先輩や他学部の学生とも仲よくなり、友だちの輪が広がっています。

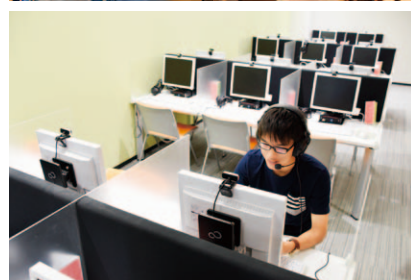
4 授業後、先生とのおしゃべり



先生との距離が近いので、授業後などに気軽に質問やおしゃべりをしています。言葉が違うことで、考え方や文化などに違いが出ることに驚くこともあります。いろいろな国や文化、人、モノに触れて、たくさんの経験をしたいですね。



5 TECで自習



国際英語学部の学生が多く利用する自習スペースで、行くと誰かが勉強しています。個別やグループで学習するスペースやe-learningに利用できるPCなどがあります。先輩が開いてくれるTOEIC®勉強会は誰でも自由に参加できます。skypeレッスンは1コマ30分。フィリピンの先生と楽しくお話をしています。

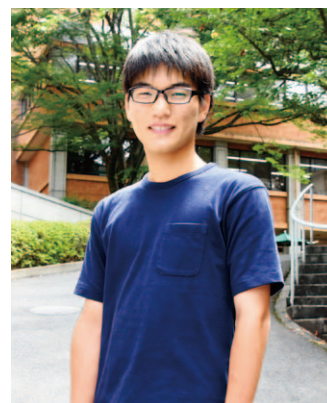


国際英語学部生の ある1日に密着

国際英語学部では、授業もプライベートも本当に英語漬け。そんな毎日の大学生活を楽しんでいる学生のある1日をご紹介します。

大学4年間の目標

- ネイティブが話す英語に近づきたい。
- TOEIC®で目標とする点数
留学前(2回生前期)までに800点
卒業までに990点(満点)をめざしています!



つばさ
辻野 飛翔 さん
国際英語学部
国際英語学科 1 回生

ともに頑張る仲間がいて、
いつも刺激を与えあっています

京都橋には、1年間の必修留学制度や、徹底した英語教育プログラムがあり、英語の勉強が集中してできると思い入学しました。将来、英語を使う仕事に就きたいと考えていたので、英語の勉強が思う存分できる環境を望んでいました。

EAP (English for Academic Purpose) は、すべて英語だけで行われる授業です。オムニバス形式となっているので、1コマごとに担当する先生や授業の内容も変わり、楽しく受けています。授業ごとに宿題が出されるので大変ですが、空いている時間に友人们と一緒に勉強しています。大学には、自習するスペースがたくさんあります。そのなかの一つ、TEC (Tachibana English Community) には、常に友

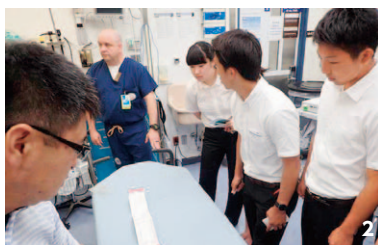
人や先輩がいて、お互いに教え合ったりして、いい刺激を受けています。また、1コマの近くには、先生方の研究室があるので、気軽に質問に行ったり、雑談をしたりしています。

1年後の留学に向けて、英語力を伸ばすため、毎日英語で「話す」「読む」ことをしています。留学先はイギリスを考えていて、IELTS®で高スコアを取り、正規の授業を受講することが目標です。留学したら、現地の学生や他国からの留学生と一緒に勉強し、交流を深めていきたいと思っています。

* International English Language Testing System (IELTS) は、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなどの高等教育機関 (S) での入学に必須とされる英語力判定システム

辻野 飛翔さんのある1日

- 6 起床
- 7 大学へ
- 7 通学中勉強 (Xreadingで読書)
- 8 大学到着
- 9
- 10 1 限授業 「EAP (reading)」
- 11 2 限授業 「EAP (listening)」
- 12 ランチ
- 13 CHATTER LUNCH BOX に参加
- 14 自習 (e-learning、宿題)
- 15 4 限授業 「Career English (TOEIC®対策)」
- 16
- 17 自習 (skype・TOEIC®勉強)
- 18
- 19
- 20 帰宅



1 横須賀海軍病院長と 2 横須賀海軍病院ER(初療室)
3 横須賀海軍病院が管理する救急車

私たちのサークルは、訪日した外国人が不調を訴えたときに対応できるようにすることを目的に、2015年11月から活動しています。2015年に行ったドリームチャレンジの活動後に、サークルで使用していたマニュアルの改編を行い、外国人傷病者対応マニュアルを作成しました。それらを活用しながら、外国人とのコミュニケーションスキルをあげるため、日々、英語力の向上をめざしています。

今回、私たちは、海外の医療制度や文化などの背景を知ること、より外国人傷病者への対応力が向上するのではと考え、新たなプロジェクトを企画しました。2016年8月に「日本にある外国」ということで、横須賀米軍基地の病院と消防署を見学しました。病院では、病院長を

医療でつながる国際の和プロジェクト 海外の医療制度や文化を知ること、 外国人傷病者対応の向上をめざす



三田 真千子 さん
看護学部
看護学科 4回生

活動内容

国際医療コミュニケーションサークル(T-micc)によるプロジェクト。2016年8月、横須賀米軍基地内にある病院(ER、産科・精神科病棟、検査室)の見学と病院長との対談、消防署の見学と地震・火災施設での災害シミュレーション体験、外国人傷病者対応マニュアルの改善を行う。

はじめ、病院のスタッフの方々から説明を受け、日本とアメリカの取り組みの違いがいろいろわかりました。たとえば、患者側から医療従事者に対して質問できる「フーキングアップ」という制度があったり、患者が痛みを我慢しないように言葉とイラストで痛みを表す「フェイススケール」が各病棟に貼られていたりしました。これを利用すると、言葉が通じなくても痛みの程度がわかるようになっていきます。

訪問を終えて、学びや気づきを活かし、マニュアルの改善をしています。また、今後の課題は、英語の語彙力不足の解決だと感じました。医療英語だけでなく、英語を話すという経験をもっと増やすため、積極的に国際交流の場にも参加していきたいと思っています。

2017年度採択プロジェクト一覧

企画名	活動概要
学会発表および医療過疎地域の問題解決の方策を検討する	救急救命学科のシミュレーション教育を紹介する。また、北海道の救急医療について調査し、問題点の改善の方策を検討
京都橘大学オリジナルディフューザー研究開発プロジェクト	山科地域にある企業と「橘」の香りのオリジナルルームフレグランスを共同研究開発する
めざせ、日本で最も熱い救急救命学科生！	大学内での防災リーダーや地域での消防団活動を行う上で活用できる知識と技術を学び、さらに防災意識を高める
環境配慮行動の促進をめざすプロジェクト	市民のごみ分別に対する態度の変化とリサイクルや省エネ等の現状調査を行い、研究結果をフィードバック
開学50周年記念地域と学生・大学をつなぐFiftival	大学祭を3日間開催。「地域の人たちとつながる」をテーマにキャンドルナイトとトークショーを実施
カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト	文化運動祭を通してカンボジアの子どもたちや先生と交流し、支援を行う。体育授業のほか図画工作や幼児教育の支援も実施

開学50周年記念

地域と学生・大学をつなぐFiftival 橘祭を10月20～22日に開催！

大学開学50周年を記念して、例年2日の橘祭を3日間開催するプロジェクトを企画しました。「地域の人たちとつながる」をテーマに、地域の方にも楽しんでもらえる参加型の大学祭となります。つながる企画として、初日に芸能人によるトークショーや大学キャンパス全体で行うキャンドルナイトを予定しています。キャンドルナイトに使うホルダーを、来場者や事前に交流している幼稚園や保育所、老人ホームなどで、マスキングテープやマジックで装飾してもらい、合計5000個のキャンドルに灯りをとめます。エリアごとにテーマを決め、さらにそれぞれのエリアで吹奏楽の演奏などを楽しんでいただけます。皆さんの記憶に残る橘祭をめざして頑張ります。

※内容は予定であり、変更の可能性があります。



桐山 貴桜 さん
現代ビジネス学部
都市環境デザイン学科
3回生



「医療でつなげる国際の和プロジェクト」
横須賀米軍基地内消防署にて

2016年度採択プロジェクト一覧

企画名	活動概要
医療でつながる国際の和プロジェクト	国際医療の知識や国際理解を深めるとともに、医療現場で通じる英語力の向上をめざし、米軍基地内の病院などを見学
学生による山科ガイドブック研究開発プロジェクト	学生生活のサポートと山科地域活性化を目的に、山科区にあるカフェやレストランを紹介する冊子を作成
カンボジア運動会プロジェクト	カンボジアの学校に日本の運動会や体育指導を紹介する「カンボジア運動会および運動能力調査プロジェクト」に参加
たちばなどここまマップ	本学の施設や設備等の情報を、必要ときに手軽にスマホやPCなどから取り出せるアプリを開発
たちばなレインボープロジェクト	性の多様性や性的マイノリティの状況を可視化し、本学の教育理念である「共生」のさらなる発展をめざした活動
めざせ、救急救命アジア学生チャンピオン	外国人傷病者へ適切な対応ができる救急救命士になることをめざし、韓国で開催された救急救命競技会に参加
留学生ともくもくファームへ行こう	留学生の日本理解を深めるとともに、学内の国際交流活発化をめざし、留学生と体験型施設を訪問

学生のやってみたいを応援する 「たちばなドリームチャレンジ」に注目！

「たちばなドリームチャレンジ」は、開学50周年企画として、本学学生から応募される主体的な企画を選考し、大学が資金面で援助する取り組みです。2016年度は7つの活動が採択され、それぞれが意欲的に取り組みました。ここでは、そのなかの1つの活動にスポットを当て紹介します。また、今年度採択された団体にも意気込みを語ってもらいました。



田中 いずみ さん
人間発達学部
児童教育学科 3 回生
(現 発達教育学部児童教育学科)



げん Kids ★応援隊で活動 子どもとの関わりを大切に

げん Kids ★応援隊は、月に1回程度、学内に子どもたちを招いて体験遊びイベントを実施したり、地域の方からの依頼を受けて、夏祭りや地蔵盆、近隣小学校での学内キャンプなどのイベントのお手伝いをしたりしています。学内で行う活動は、毎回、自分たちで企画を考えています。

今春行った「実験教室」では、108人の子どもたちが参加し、楽しんでくれました。実験教室では、スーパーボールづくり、スライムづくり、小麦粘土づくり、キャンドルでお絵描きの4つの企画を行いました。特にスライムづくりは、子どもたちに大人気でした。私たちは子どもたちが安全に楽しめるように常に考え、家庭ではできないこと、子どもたちと一緒にモノづくりをするこ

とや体を動かすことを企画するように心がけています。

この活動は、実習以外で子どもたちと関われる貴重な機会です。そこから学べるものがたくさんあります。今後も、地域とのつながりを大事にして、たくさんの人に喜んでもらえる活動にしていきたいと思っています。

たちどまらない、 京都橋の学び

京都橋大学では、さまざまな学
びや取り組みが行われていて、そ
りません。先輩たちの経験を通じ
て、それらの活動を紹介します。



中村 太一 さん
現代ビジネス学部
都市環境デザイン学科
急救救命コース 3 回生
(現 健康科学部急救救命学科)



京都マラソンで救護ボランティアに参加 現場での救護活動はいい経験になりました

急救救命学科では、1・2回生全員が京都市で行われる京都マラソンの救護ボランティアとして、AEDや応急救護グッズを持って活動しています。私は今回で2回目の参加となりましたが、初回に比べ、状況に応じた対応ができるようになりました。沿道では、ランナーの様子を常に見ながら声かけをしていました。体調の悪くなったランナーの状況を見極め、医師や看護師の対応が必要な場合は、素早い連携が取れるように気をつけていました。フィニッシュ地点での活動では、ゴール後に体調が悪くなった、足がつって座り込んでしまう人も多くいました。後方からのランナーと接触しないよう脇へ誘導したり、救護所まで車椅子で案内したり、マッサージをして足を伸ばしたり、丁寧に接するように心がけていました。

普段、大学では、人形や学生を相手に手技の練習をしていて、本当に具合の悪くなった人やケガをされた人に対応する機会は多くないので、とてもいい勉強になりました。今後とも、その人にとって最善の対応ができるように努力していきたいと思っています。



田上 史也 さん
文学部
歴史学科 3 回生



ドイツ研修旅行に参加 現地にいき、歴史と文化に触れる

歴史学科の学生を対象としたドイツ研修旅行に2回生のときに参加しました。日本と異なる文化を持つ国を見たかったからです。ドイツでの一番の目的は、ベルリンの壁を自分の目で見て触ることでした。実際に見た壁は、想像していたよりも高く、長く続き、そして厚みが薄かったことが印象的でした。壁を越えた人々に起こった悲劇なども現地のガイドさんから聞き、見て知ることの大切さを実感しました。

自由時間は、友人たちと行動しました。ドイツの文化や歴史に直に触れようと、プログラムにはない博物館を回ったり、公共交通機関を利用して、ベルリン郊外のポツダムにあるサンサーシ宮殿を訪れました。興味のあることを積極的に言い、いろいろな経験ができたことで、自発的に行動することの大切さを再認識しました。

将来、教員をめざしているので、大学生活でさまざまな経験を重ね、それを子どもたちに伝えたいと思っています。震災ボランティアや留学生との交流などもしていますが、これからも積極的に行動していきたいですね。



瀧本 実紀 さん
看護学部
看護学科 3 回生



看護学部お助け隊の活動 高齢者の生活を支援する

看護学部では授業の一環として、地域の高齢者宅への訪問活動を行っています。お助け隊の活動は「高齢者とのコミュニケーションを通じて、生活実態を知り、対象者が求めるサポートを学ぶ」を課題として行っています。

今回は、京都市宮醍醐中山団地に居住する高齢者の方々に事前にアンケートを取り、一人ではできない高所の掃除や網戸の張り替えなどの家事をグループに分かれてお手伝いしました。お手伝いをしているなかで、普段の生活の様子や健康状態、その人ができること、できないことを把握していきました。また、周囲とのつながりや、今利用している施設や制度でその人らしい生活が維持できるのか、生活の質をあげることができないかを考えました。訪問を終えて、自分自身の課題も見つかりました。コミュニケーションの取り方がまだまだ未熟なので、いろいろな年代の人と関わって経験を積んでいきたいと思っています。また、どんな環境においても信頼しあえる関係を築くことが大事だと実感しました。その人の生きがいや強みを活かした看護援助と一緒に考え、成長し、取り組んでいけるような看護師になりたいですね。



高山 晴香 さん
現代ビジネス学部
都市環境デザイン学科 4 回生



ゼミでアイスクリームの商品開発 大学生の視点を商品に活かす

木下達文ゼミでは、毎年、3回生の後期からゼミ生全員で商品開発を行っています。私たちの学年では、食品開発をしたいという意見があり、アイスクリームの開発になりました。京都にあるアイスクリーム製造メーカーである株式会社東洋食品の協力も得られ、今年10月に販売予定のアイスクリームを共同で開発しています。若者に注目されるためのニーズ調査などを大学内で行い、企業に提案しています。プロジェクトでは、商品開発班と広報班に分かれてそれぞれ進めています。私が担当する広報班では、話題性を持たせること、大学の知名度を上げることなどの視点から、ウェブを使っての広報展開や、プロモーションビデオの作成に取り掛かっています。また、思わず手に取りたくなる魅力的なパッケージも提案したいと考えています。

このプロジェクトでは、打ち合わせやプレゼンテーションを通して、企業の方々と直接やり取りができるいい機会となっています。大学生ならではの発想で、よりよい商品の開発ができるよう、みんなで頑張っています。

2018年4月、健康科学部に 作業療法学科 & 臨床検査学科 誕生

京都橘大学の健康科学部に2018年4月、作業療法学科と臨床検査学科が誕生します。

これで健康科学部は心理学科、理学療法学科、救急救命学科とあわせて5学科からなる『心理と医療の総合学部』へ発展します。

作業療法学科



作業療法士とは

身体や心に障がいのある人に、さまざまな作業を通じて治療や訓練を行い、日常生活や社会生活に適応できるようにリハビリテーションを行います。対象者の状態にあわせてリハビリテーションプログラムを作成し、食事、移動、更衣、手芸、工芸、絵画、書道などあらゆる作業技法を通じて、動作能力の回復にとどまらず、心理的・精神的な安定と社会適応を手助けします。

3つのpoints

point 1

対象者が望む生活の実現を支援する作業療法士をめざす

作業療法士の使命は、作業を通じて心身に障がいを持つ人の健康を促進し、それらの人たちが望む生活の実現を支援することにあります。作業療法学科では、作業療法士に必要な医学や作業に関する科目を1回生時から段階的に配置し、対象者の心身機能の回復にとどまらず、生活の質の向上を実現するための知識と技能を身につけます。

point 2

4年間を通じた臨床実習を開講

学生が早い段階から目的を明確にした学習を行うとともに、学んだ知識と技能を実践し、将来、地域社会に貢献する作業療法士になれるように、1・2回生に「臨床基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、3回生に「臨床評価実習」、4回生に「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」をそれぞれ開講し、病院や施設において4年間を通じた臨床実習を行います。

point 3

より高度な専門知識を学ぶための2つのコース

学生一人ひとりの関心に基づき、より高度な専門知識を学ぶため、2つのコースを設置し、目標とする進路実現をめざします。

- 地域の医療と福祉コース
- こころと子どもの支援コース

臨床検査学科



臨床検査技師とは

病院等医療機関などで各種の医学的な検査を行う医療技術者です。臨床検査には、人から採取した血液や尿、細胞などを調べる検体検査と、脳波や心電図、心音図など人を直接調べる生理機能検査の2種類があります。検査・分析を通して、診断の確定や病気の予防、治療方針の決定などを助け、チーム医療の一員として医療の現場を支えています。

3つのpoints

point 1

細胞検査士コースの開設

細胞検査士は、日本臨床細胞学会が認定する臨床検査技師の上位資格で、顕微鏡を使って細胞検査(細胞診)を行い、複雑な特徴を持つがん細胞を発見することを業務とする高度な専門職です。臨床検査学科では、細胞検査士コース(選択制)を開設し、臨床検査技師との2つの免許・資格が同時取得できる準備をしています。

point 2

認定資格で求められる高度な専門知識を学ぶ領域別演習を開講

臨床検査分野には、免許を取得して実務経験を積むことにより取得できる「超音波検査士」「認定輸血検査技師」「認定臨床微生物検査技師」「認定臨床化学者」などの認定資格がたくさんあります。それらの資格で求められる高度な専門知識に触れることのできる演習科目を4回生前期に開講します。

point 3

4年間を通じてゼミを開講

4年間を通じて全員がゼミ(総合演習)を受講します。大学で、臨床検査を学ぶために必要なスタディスキルやアカデミックスキル、医療現場におけるコミュニケーションスキルやチーム医療、専門分野の研究方法を学び、生涯学び続ける方法と姿勢を段階的に身につけます。

山科を元気にする地域連携の拠点 「たちラボ山科」 活動報告

2017年3月に開設した「たちラボ山科」は、2016年度、京都市「学まち連携大学」促進事業の採択をきっかけに、大学が立地する山科区とのより一層の連携をめざし、山科駅前商店街の一角に設置されました。地域連携に関心のある学生委員会「たちラボスタッフ」の活動を紹介します。

視覚障がい者サークルの皆さんとの交流会

inたちラボ山科

2017年6月15日(木)、山科区在住の視覚障がいのある方との交流会が「たちラボ山科」で行われました。この会は、京都市山科視覚障害児者協会から「学生や多くの人に視覚障がい者のことを知ってほしい」というお話があり、実現したものです。当日は、京都市山科身体障害者福祉会館から「たちラボ山科」までの約5分の道のりを、視覚障がい者の方々を歩行誘導しました。誘導について、道路の段差や狭い歩道、駐車している車が視覚障がい者には危険なことを実感しました。また、誘導者が車道側を歩かなければいけないことなど改めて認識することがありました。

その後の交流会では、いろいろなお話を伺うことができました。そのなかで、皆さんにお伝えしたい大事なことがあります。白杖を持った人が困っていたらお手伝いが必要かの声をかけてください。相手の肩をたたくなどして誰に声をかけているのか知らせることが大切です。そして、むやみに白杖を持ちたりしないでください。白杖は、視覚障がい者が周りの情報を入手したり、身体を支えとなる大事な道具です。

私はこの経験を通して、声をかけるのは勇気がいることですが、自分たちができることから行動していきたいと思いました。



1 視覚障がい者の方々を「たちラボ山科」まで歩行誘導

2 「たちラボ山科」での交流会

今後の活動予定や報告は
Facebook「京都橘大学 地域連携推進機構・
地域連携センター」をご覧ください。

京都橘大学サテライト・ラボラトリー
「たちラボ山科」
〒607-8080 京都市山科区竹鼻竹ノ街道町44-3
お問い合わせ
京都橘大学 地域連携センター(学術振興課)
TEL.075-574-4342 FAX.075-574-4149
E-mail occ@tachibana-u.ac.jp



1 学生委員会スタッフのミーティングの様子

2 学生委員会スタッフ

学生委員会スタッフ募集中!

山科地域とのつながりを軸としたプロジェクトの企画運営をしたい人、興味のある人は、ぜひ参加してください!

学生委員会スタッフミーティングは、毎週木曜日16:30~18:00に行っています。今後の企画の検討や「たちラボかわらばん」の作成など、スタッフ同士和気あいあいと活動しています。



山本 彩夏 さん
看護学部
看護学科 3回生



尾曾 巧弥 さん
現代マネジメント学科救急救命コース 4回生
(現 救急救命学科)



平賀 可純 さん
日本語日本文学科書道コース 4回生



中村 良太 さん
心理学科 3回生



奥 日向 さん
国際英語学科 1回生



森 果歩 さん
歴史遺産学科 3回生



安部 正道 さん
児童教育学科 3回生



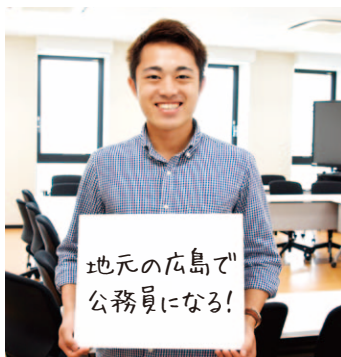
前田 絵里花 さん
看護学科 1回生



濱野 圭一郎 さん
理学療法学科 4回生



高橋 歩 さん
経営学科 3回生



古澤 優太 さん
歴史学科 3回生

大学開学50周年記念企画

私たちの挑戦!

2017年開学50周年を迎えた京都橘大学は、
これからも学生の挑戦を応援します。



柄澤 穂乃楓 さん
救急救命学科 1回生



中澤 莉菜 さん
都市環境デザイン学科 4回生



谷敷 朋奈 さん
歴史遺産学科 2回生



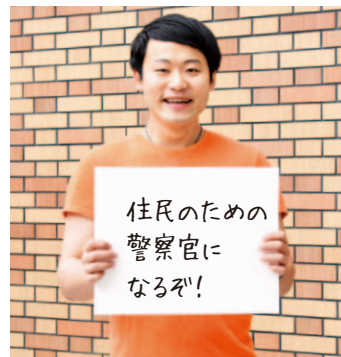
木村 祐貴 さん
看護学科 2回生



林 美優 さん
都市環境デザイン学科 2回生



山崎 真菜美 さん
児童教育学科 1回生



中川 智貴 さん
日本語日本文学科 4回生



金子 健太 さん
歴史学科 2回生



平井 花帆 さん
国際英語学科 1回生



高谷 港 さん
経営学科 1回生



photo : Ai Hirano